

建設業の 労働災害防止対策のポイント

10年間の死傷災害に学ぶ

安全・健康は



建設現場の原点

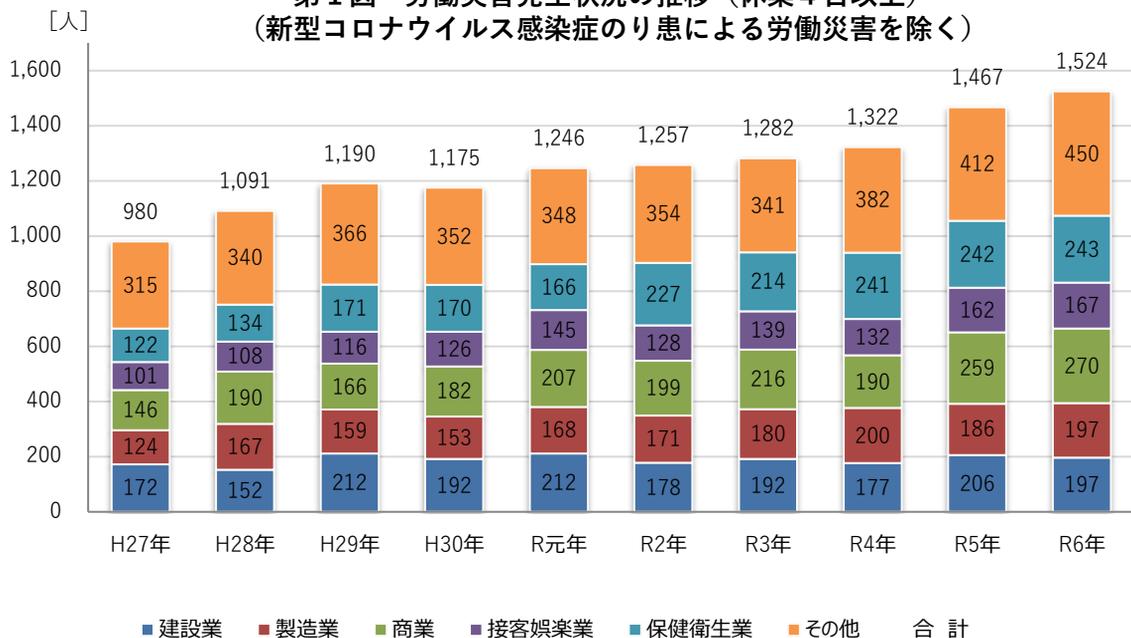
熱中症
予防



令和7年（2025年）版
厚生労働省 沖縄労働局

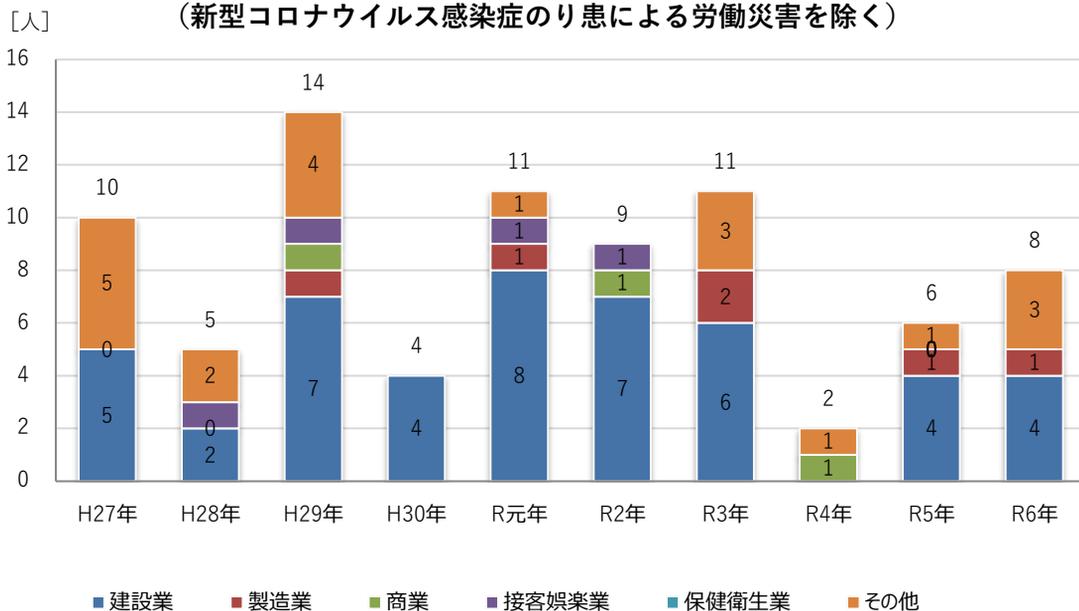
①労働災害の概況

第1図 労働災害発生状況の推移（休業4日以上）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



平成27年から令和6年の10年間の県内における建設業の労働災害による死傷者数（休業4日以上）は毎年平均189人、全産業の15.1%を占めております。令和6年は197人で前年比9人減少し全産業の12.9%を占めております。

第2図 労働災害発生状況の推移（死亡）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



平成27年から令和6年の10年間の県内における建設業の労働災害による死亡者数は、毎年平均4.7人、全産業の58.8%を占めます。令和6年の建設業の労働災害による死亡者数は4人でした。

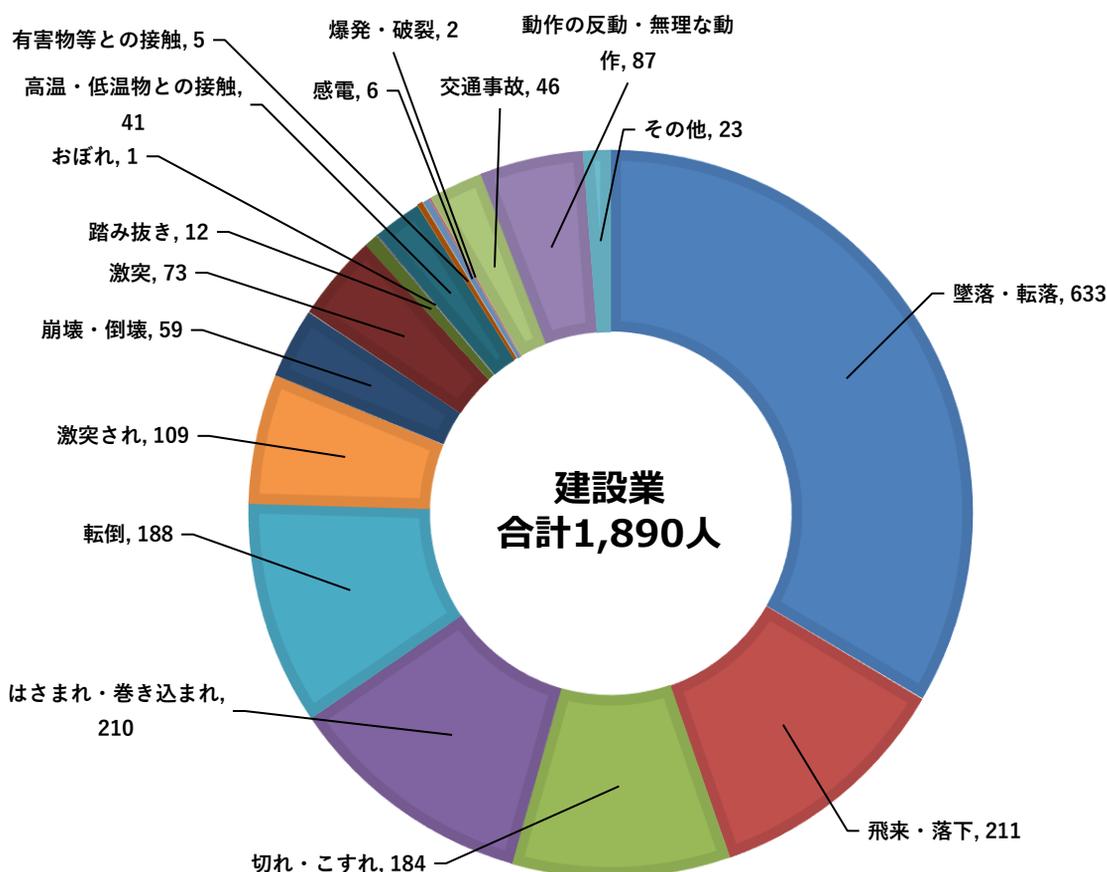
②建設業における労働災害

(1) 事故の型

平成27年から令和6年までの10年間に発生した休業4日以上死傷災害を「事故の型」別にみると、第3図に示すとおり、重篤な災害につながる「墜落・転落」災害が33.5% (633人) を占めるほか、「飛来・落下」災害、「はさまれ・巻き込まれ」災害、「転倒」災害、「切れ・こすれ」災害も多く発生しています。

1. 墜落・転落（人が落ちること。車両系機械等とともに転落することを含む。）… 633人（33.5%）
2. 飛来・落下（飛んでくるもの・落ちてくるものが人にあたること。）… 211人（11.2%）
3. はさまれ・巻き込まれ（挟まれ・巻き込まれる状態でつぶされ・ねじられること。）… 210人（11.1%）
4. 転倒（ほぼ同一平面上で転ぶこと。）… 188人（9.9%）
5. 切れ・こすれ（こすられること。こすられることにより切れること。刃物等により切れること。）… 184人（9.7%）
6. 激突され（飛来・落下や崩壊・倒壊を除き物が人にあたること。交通事故を除く。）…109人（5.8%）
7. 動作の反動・無理な動作（重い物を持ち上げて腰をぎっくりさせたというように身体の動き、不自然な姿勢、動作の反動などが起因して、すじをちがえる、くじき、ぎっくり腰およびこれに類似した状態になる場合をいう。）… 87人（4.6%）
8. 激突（墜落・転落や転倒を除き人が物にあたること。車両系機械等とともに激突することを含む。交通事故を除く。）… 73人（3.9%）

第3図 事故の型（休業4日以上）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）

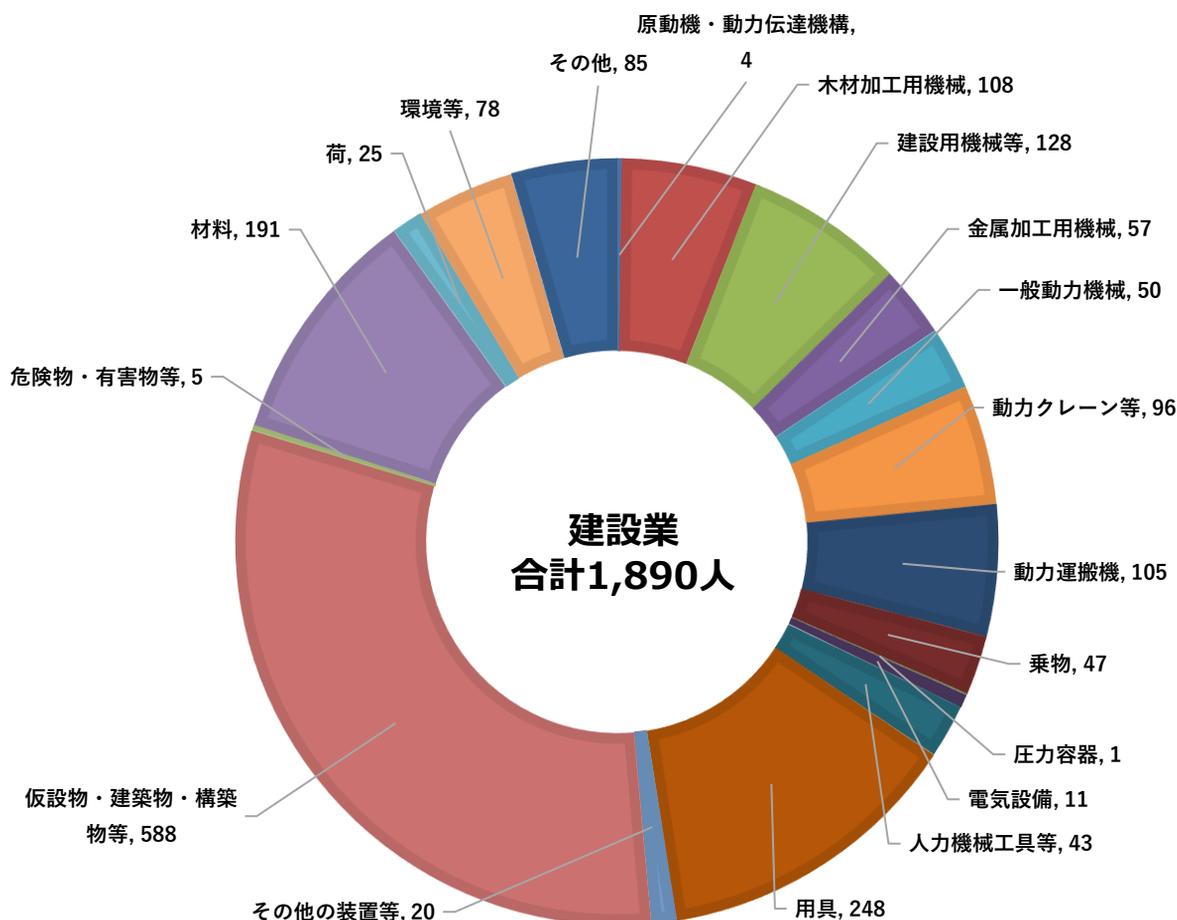


(2) 起因物

平成27年から令和6年までの10年間に発生した休業4日以上の死傷災害を「起因物」（災害発生のもととなったもの）別にみると、第4図に示すとおり、「墜落・転落」災害や「転倒」災害の起因物となることが多い「**仮設物・建築物・構築物等**」が**31.1%（588人）**を占めるほか、「飛来・落下」災害の起因物となることが多い「**用具**」や「**材料**」、重篤な災害につながりやすい「**重機等**（「**建設用機械等**」「**動力クレーン等**」「**動力運搬機**」）に起因する災害も多く発生しています。

1. 仮設物・建築物・構築物等（足場、支保工、階段、開口部、屋根、作業床、歩み板、通路、建築物、構築物等）… 588人（31.1%）
2. 用具（はしご、脚立、踏台、玉掛け用ロープ等）… 248人（13.1%）
3. 材料（木材、鋼材、ねじ、釘、石、砂等）… 191人（10.1%）
4. 建設用機械等（トラクター・ショベル、ドングショベル、パワーショベル、くい打機、ローラー、コンクリートポンプ車、高所作業車等）… 128人（6.8%）
5. 木材加工用機械（丸のこ盤、かな盤、チェーンソー等）… 108人（5.7%）
6. 動力運搬機（トラック、ミキサー車、フォークリフト、コンベア等）… 105人（5.6%）
7. 動力クレーン等（クレーン、移動式クレーン、エレベーター、建設用リフト等）… 96人（5.1%）
8. 環境等（地山、岩石、立木、海、川、高温・低温環境等）… 78人（4.1%）

第4図 起因物（休業4日以上）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



③建設業における死亡災害

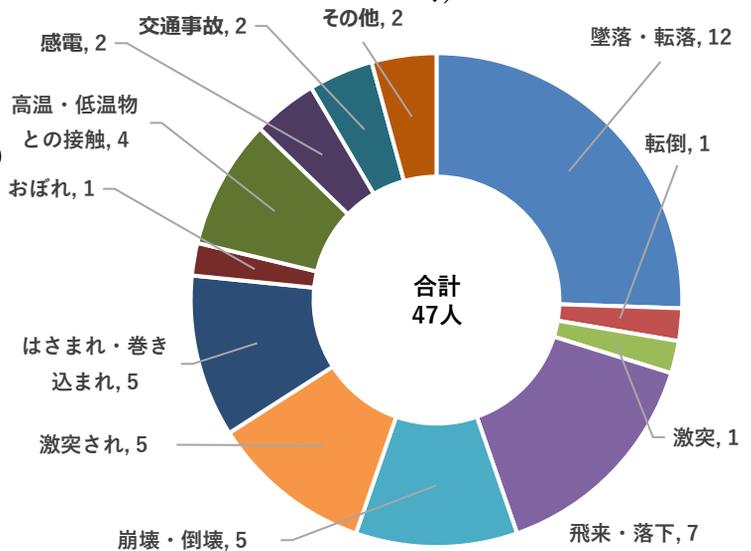
沖縄県内における建設業で、平成27年から令和6年までの10年間に発生した死亡災害について、その発生状況を分析したところ、次のとおりとなっています。

(1) 事故の型

死亡災害を「事故の型」別にみると、第5図に示すとおり、死傷災害の多発傾向と同様に「墜落・転落」災害が最多の12人(25.5%)であるほか、「飛来・落下」災害や「激突され」災害も死亡につながりやすくなっています。

1. 墜落・転落 … 12人 (25.5%)
2. 飛来・落下 … 7人 (14.9%)
3. 激突され … 5人 (10.6%)
3. はさまれ・巻き込まれ … 5人 (10.6%)
3. 崩壊・倒壊 … 5人 (10.6%)
6. 高温・低温物との接触 … 4人 (8.5%)
7. 交通事故 … 2人 (4.3%)
7. 感電 … 2人 (4.3%)
9. 転倒 … 1人 (2.1%)
9. 激突 … 1人 (2.1%)
9. おぼれ … 1人 (2.1%)

第5図 事故の型(死亡)
(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)

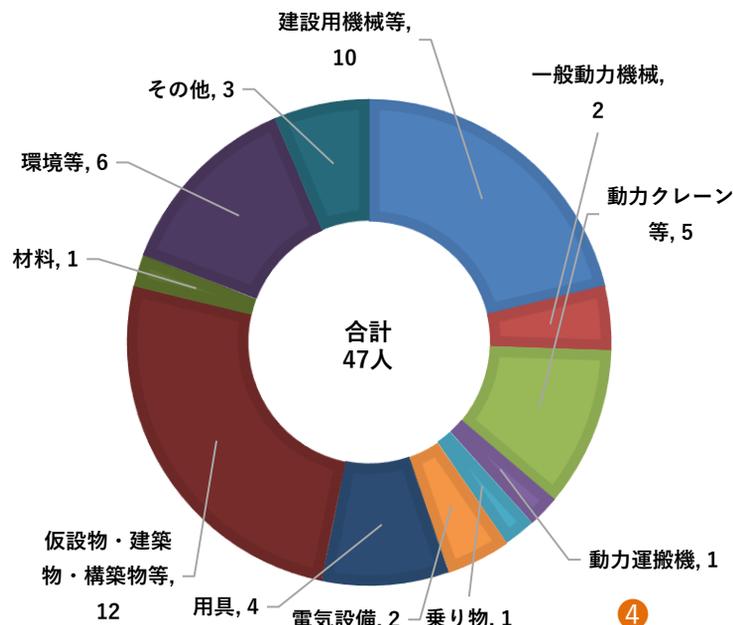


(2) 起因物

死亡災害を「起因物」別にみると、第6図に示すとおり、「墜落・転落」災害の起因物となることが多い「仮設物・建築物・構築物等」が12人(25.5%)、「激突され」災害の起因物となることが多い「建設用機械等」、「高温物・低温物との接触」災害の起因物となる「環境等」が多くなっています。

1. 仮設物・建築物・構築物等 … 12人 (25.5%)
2. 建設用機械等 … 10人 (21.3%)
3. 環境等 … 6人 (12.8%)
4. 動力クレーン等 … 5人 (10.6%)
5. 用具 … 4人 (8.5%)
6. 一般動力機械 … 2人 (4.3%)
6. 電気設備 … 2人 (4.3%)
8. 動力運搬機 … 1人 (2.1%)
8. 乗り物 … 1人 (2.1%)
8. 材料 … 1人 (2.1%)

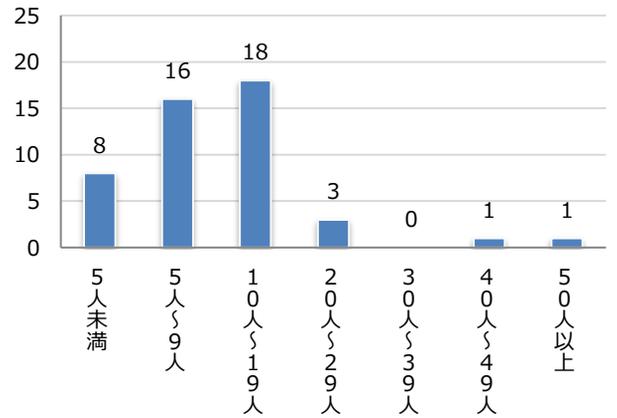
第6図 起因物(死亡)
(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)



(3) 規模別

死亡災害が発生した事業場を規模（労働者数）別にみると、第7図に示すとおり、
 10人～19人の規模…18人（38.3%）
 5人～9人の規模…16人（34.0%）
 5人未満の規模…8人（17.0%）
 20人～29人の規模…3人（6.4%）
 40人～49人の規模…1人（2.1%）
 50人以上の規模…1人（2.1%）
 の順に多く発生しており、小規模事業場がその多くを占め、全体の89.4%を労働者数20人未満の事業場が占めます。

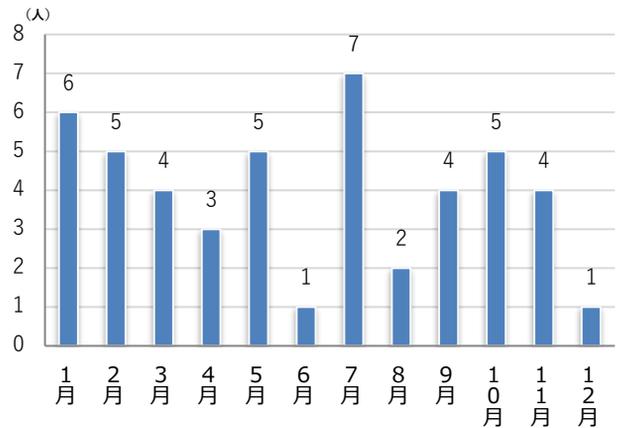
第7図 規模別（死亡）
 （新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



(4) 月別

死亡災害が発生した月別にみると、第8図に示すとおり、
 7月…7人（14.9%）
 1月…6人（12.8%）
 2,5,10月…各5人（各10.6%）
 3,9,11月…各4人（各8.5%）
 4月…3人（6.4%）
 8月…2人（4.3%）
 6月,12月…各1人（各2.1%）
 の順に多く発生しております。

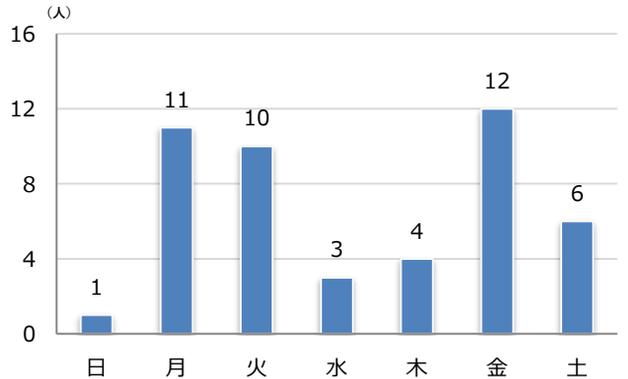
第8図 月別（死亡）
 （新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



(5) 曜日別

死亡災害が発生した曜日別にみると、第9図に示すとおり、
 月曜日…11人（23.4%）
 火曜日…10人（21.3%）
 水曜日…3人（6.4%）
 木曜日…4人（8.5%）
 金曜日…12人（25.5%）
 土曜日…6人（12.8%）
 日曜日…1人（2.1%）
 となっており、金曜日に多く発生しています。

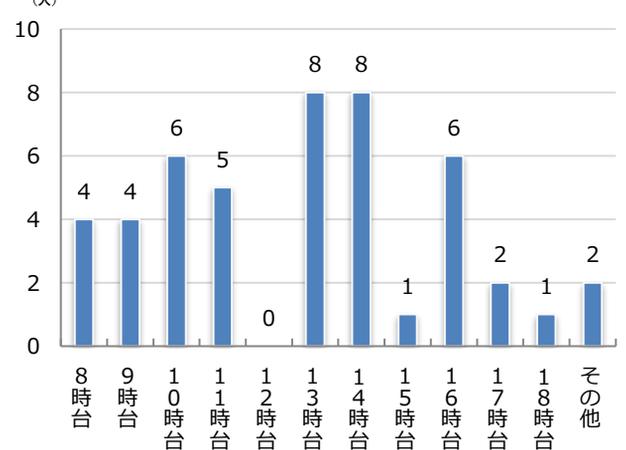
第9図 曜日別（死亡）
 （新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



(6) 時刻別

死亡災害が発生した時刻別にみると、第10図に示すとおり、
 13,14時台…各8人（各17.0%）
 10,16時台…各6人（各12.8%）
 11時台…5人（10.6%）
 8,9時台…各4人（各8.5%）
 17時台、その他…各2人（各4.3%）
 15時台、18時台…各1人（各2.1%）
 となっており、13時台及び14時台に多く発生しています。

第10図 時刻別（死亡）
 （新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



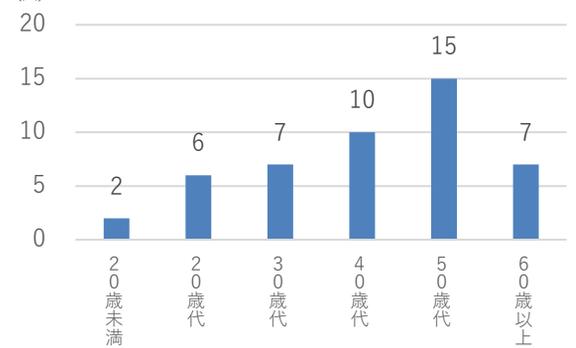
(7) 年齢別

死亡災害に遭った労働者の年齢別にみると、第11図に示すとおり、

- 50歳代…15人 (31.9%)
- 40歳代…10人 (21.3%)
- 60歳以上…7人 (14.9%)
- 30歳代…7人 (14.9%)
- 20歳代…6人 (12.8%)
- 20歳未満…2人 (4.3%)

の順で多く発生しています。

第11図 年齢別 (死亡)
(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)



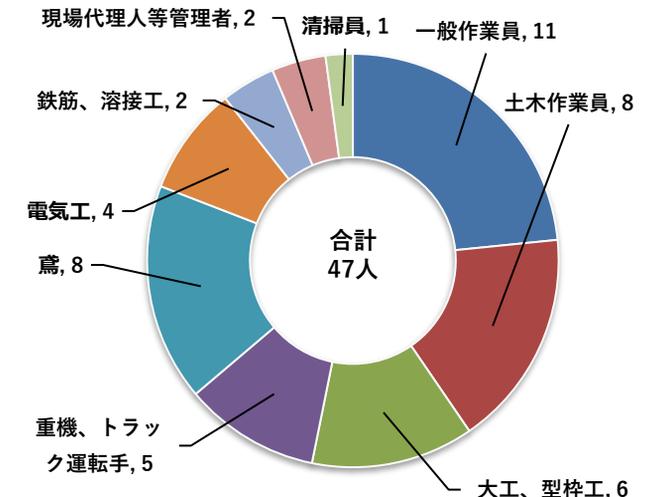
(8) 職種別

死亡災害に遭った労働者の職種別にみると、第12図に示すとおり、

- 一般作業員…11人 (23.4%)
- 土木作業員…8人 (17.0%)
- 鳶…8人 (17.0%)
- 大工、型枠工…6人 (12.8%)
- 重機、トラック運転手…5人 (10.6%)
- 電気工…4人 (8.5%)
- 鉄筋、溶接工…2人 (4.3%)
- 現場代理人等管理者…2人 (4.3%)
- 清掃員…1人 (2.1%)

の順で多く発生しています。

第12図 職種別 (死亡)
(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)



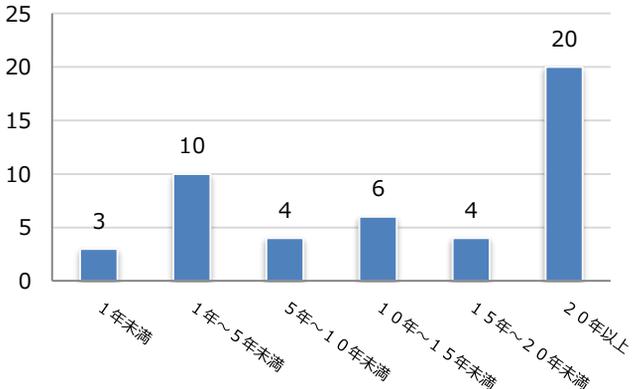
第13図 経験年数別 (死亡)
(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)

(9) 経験年数別

死亡災害に遭った労働者の経験年数別にみると、第13図に示すとおり、

- 20年以上…20人 (42.6%)
- 1年～5年未満…10人 (21.3%)
- 10年～15年未満…6人 (12.8%)
- 15年～20年未満…4人 (8.5%)
- 5年～10年未満…4人 (8.5%)
- 1年未満…3人 (6.4%)

の順で多く発生しています。



(10) 土木工事の詳細

土木工事で発生した死亡災害は15人であり、建設業全体の31.9%を占める。

工事の種別をみると、第14図に示すとおり、

- その他の土木他工事…8人 (53.3%)

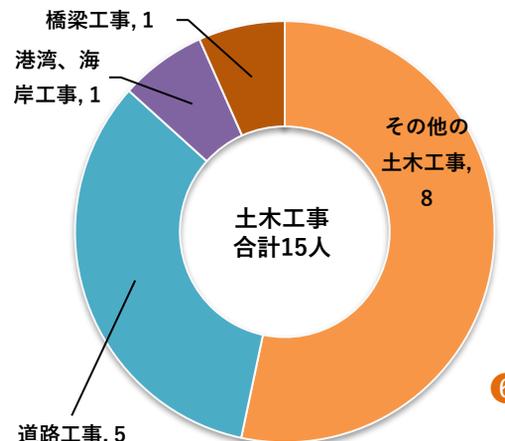
- 道路建設工事…5人 (33.3%)

- 港湾・海岸工事…1人 (6.7%)

- 橋梁工事…1人 (6.7%)

の順で発生しています。

第14図 土木の工事種別 (死亡)
(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)



(11) 建築工事の詳細

建築工事で発生した死亡災害は28人であり、建設業全体の59.6%を占める。

工事の種別をみると、第15図に示すとおり、

- 建築その他…13人 (46.4%)
- 型枠、コンクリート打設…7人 (25.0%)
- 足場組立、解体工事…5人 (17.9%)
- 鉄骨、鉄筋工事…1人 (3.6%)
- 電気設備工事…1人 (3.6%)
- 現場清掃…1人 (3.6%)

の順で多く発生しています。

(12) 墜落の高さ別（建築）

建築工事で発生した死亡災害のうち、墜落災害は10人である。

墜落の高さでみると、第16図に示すとおり、

- 2m未満…2人 (20.0%)
- 2m～4m未満…2人 (20.0%)
- 4m～6m未満…2人 (20.0%)
- 8m～10m未満…1人 (10.0%)
- 10m～15m未満…2人 (20.0%)
- 不明…1人 (10.0%)

の高さで発生しています。

墜落の高さが10m未満で70.0%を占めており、2m未満であっても、2人が死亡している。

(13) 工事の発注者別

死亡災害が発生した工事の発注者別にみると、第17図のとおり、

- 個人発注…16人 (34.0%)
- 法人発注…13人 (27.7%)
- 国発注…9人 (19.1%)
- 発注者なし…3人 (6.4%)
- 市町村発注…3人 (6.4%)
- 県発注…3人 (6.4%)

の順に多く発生しています。

発注者の公共・民間別でみると、

- 公共工事…15人 (31.9%)
- 民間工事…32人 (68.1%)

となっています。

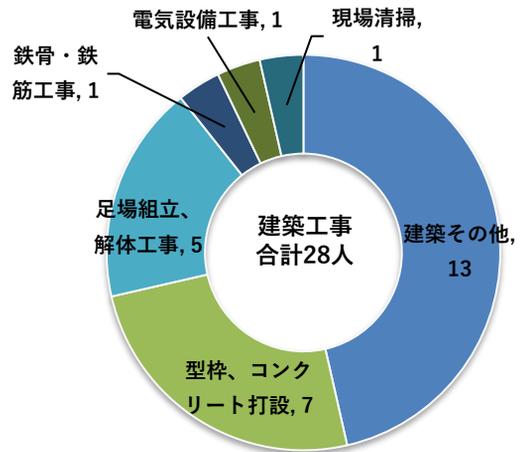
(14) 請負別

死亡災害が発生した工事の請負別にみると、第18図に示すとおり、

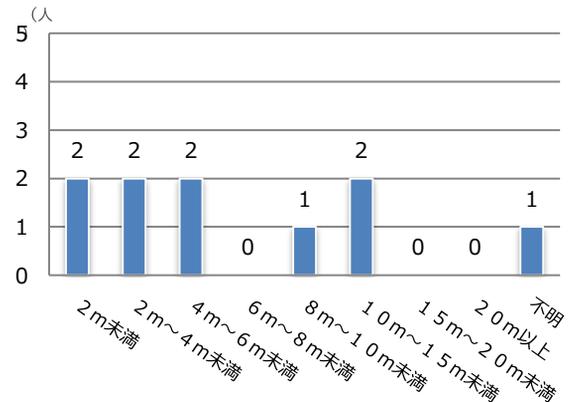
- 元請け（発注者なし含む）…13人 (27.7%)
- 一次下請け…23人 (48.9%)
- 二次下請け…7人 (14.9%)
- 三次下請け以下…4人 (8.5%)

となっており、下請け事業者の割合が72.3%と多く発生しています。

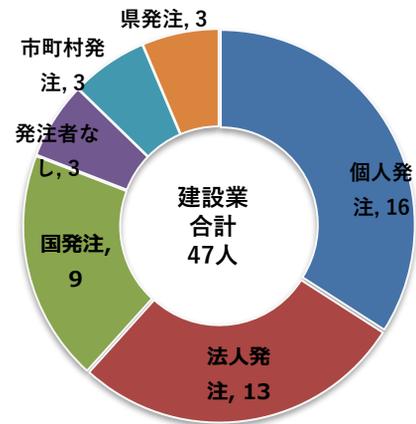
第15図 建築の工事種別（死亡）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



第16図 墜落の高さ別（死亡）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



第17図 工事の発注者別（死亡）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）



第18図 請負別（死亡）
（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）

